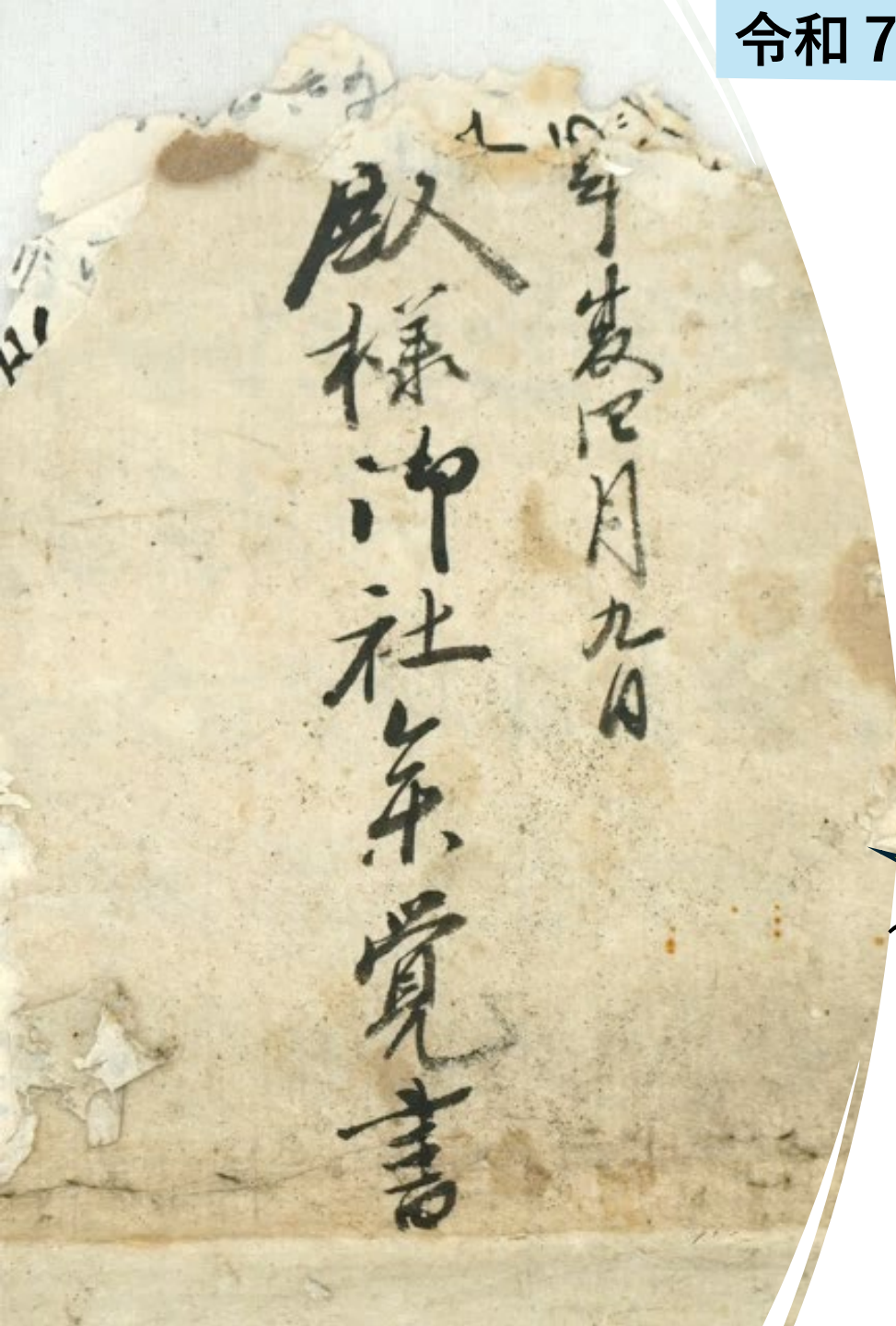




志賀海神社に お殿様がやってきた！

新発見！の古文書を一緒に解読してみよう！！～

目次

新発見の「御殿様御社参覚書」を解読してみよう！



おとのさまごしゃさんおぼえがき
ナゾ1 「御殿様御社参覚書」の年代を考えよう！

ごじょうらのしだい
ナゾ2 「御上覧之次第」を解読しよう！！

おたずね
ナゾ3 「御問」の内容を解読しよう！！

おとのさまごしゃさんおぼえがき
「御殿様御社参覚書」には**いつ**のことが書かれている？

【表紙の解読文字】

(破損) 「年夏四月九日」

(破損) 「(御)殿様御社参覚書」

寛延二年巳ノ二月改ル之



「寛延二年巳ノ二月ニ改ル之」
(1749年に書き直す) とあるけど、
肝心のこの資料の年代がわからない。
いつ殿様が参拝されたときの覚書かな？

破れあり

寛延二年巳ノ二月ニ改ル之
殿様御社参覚書

寛延二年巳ノ二月ニ改ル之

寛延二年巳ノ二月ニ改ル之
殿様御社参覚書

寛延二年巳ノ二月ニ改ル之

ナゾ1の ヒント

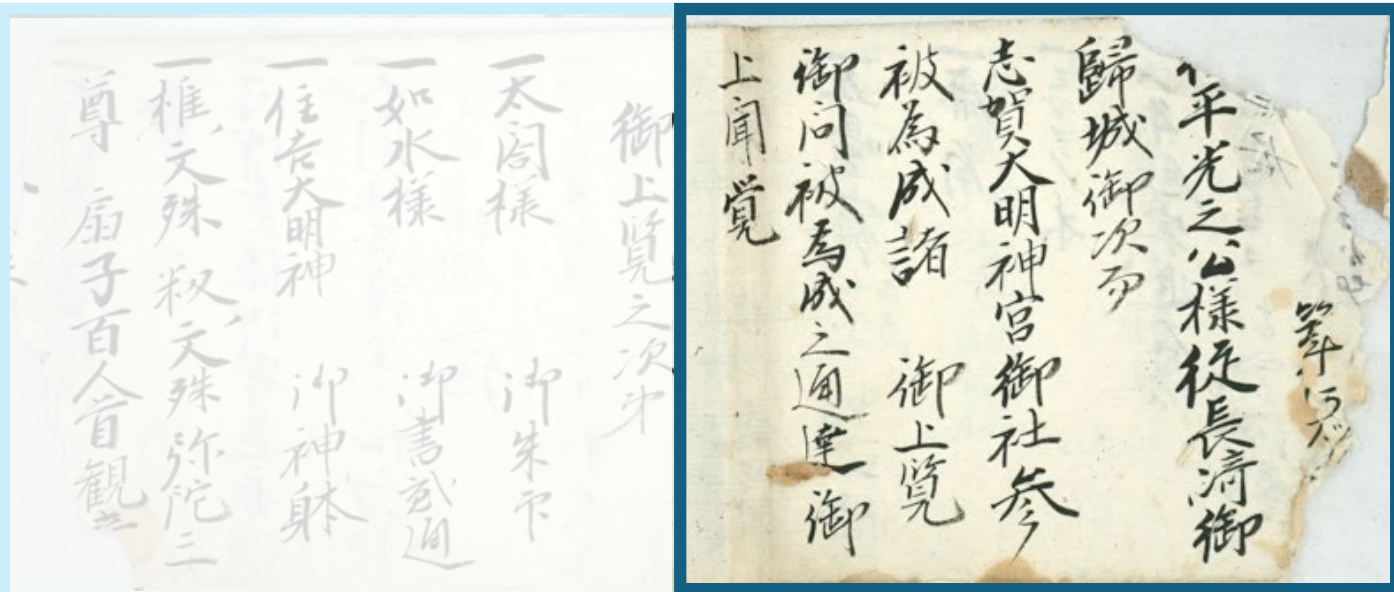


【ちよつと教えて！】藩主の姓は黒田なのになぜ松平？
將軍と親戚である待遇を与える「松平賜姓（しせい）」。
幕府は主に国持ち外様大名に対して松平姓を与えました。



おとのさまごしゅさんおぼえがき

ヒントから「御殿様御社参覚書」の年代を考えよう！①



ヒント 1

資料の表紙に書かれた二つの年代日付の意味を
考えてみよう。

破損した年代の日付は「**四月九日**」とあるよ。

（かんえん）

次に「寛延二年（一七四九）二月にこれを改める（書き直した）」とあるから、もともとの資料が記録されていた内容は**一七四九年以前**と考えるべきだね。

つまり、「**御殿様御社参覚書**」は**一七四九年以前の四月九日に殿様が参拝した記録**ということだね。

ヒント 2

表紙の次ページを見てみよう！

【解説文字】

（松）

□ **平光之公様**従長崎御

帰城御次で

志賀大明神宮御社参

被為成、諸 御上覧

御問被為成之通達御

上聞覚

【意識】

（黒田）

三代藩主の**松平光之様**が

長崎から福岡城へ帰るつ

いでに**志賀海神社に参拝**

された際に、ご上覧、お

尋ねになった内容の覚書

ナゾ1の
ヒント



おとのさまごしゅさんおぼえがき
ヒントから「御殿様御社参覚書」の年代を考えよう！②

ヒント
3

志賀海神社の宮司家に伝来した資料を
解読してみよう！

【資料1】

(まんれきかないねんかん)
「万曆家内年鑑」*

(えんぽう)

同(延宝)九年四月九日光之公従長崎御帰帆

ノ節御社参、宮司御目見、社人頭三人・八乙

女江御金子五百疋拝領

【資料1】 意識

延宝九年(一六八一)四月九日、黒田光之様

(みつゆき)

が長崎から船で福岡へ帰られたとき、志賀海

神社へ参拝された。そこで宮司が光之様にお

目見えし、社人頭三人・八乙女へ金子を五〇

〇疋くだされた。

私が53歳のときに
志賀海神社へ参拝
した記録が残って
あったか！



福岡藩三代藩主 黒田光之肖像(福岡市博物館所蔵)
藩主在位期間: 承応3年(1654)～元禄元年(1688)

*「万曆家内年鑑」…志賀海神社のいわゆる年代記。

大谷光男『金印ものがたり』(西日本図書コンサルタント協会、1979年)所収。

ナゾ1の
答え

おとのさまごしゃさんおぼえがき ヒントから「御殿様御社参覚書」の記録年代を導こう！

ヒントから答えを導こう！

ヒント
1

かんえん

寛延2年（1749）より以前の4月9日の記録である

ヒント
2

みつゆき

松平（黒田）光之が参拝した記録である

ヒント
3

志賀海神社の宮司家に伝来した資料に

えんぽう

黒田光之が延宝9年4月9日に参拝している記載あり

答え

「御殿様御社参覚書」の記録年代は
延宝9年(1681)4月9日



おとのさまごしゃさんおぼえがき
「御殿様御社参覚書」の中身は何が書かれているのか？

其ノ1

ごじょうらのしだい

「御上覧之次第」

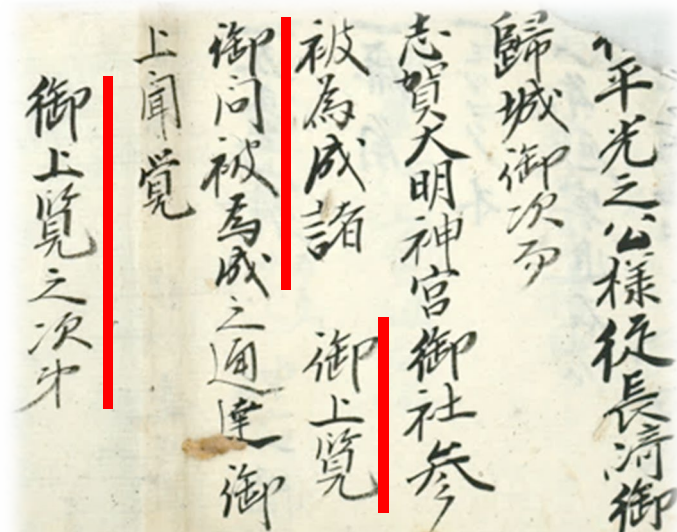
…黒田^{みつゆき}光之が見た神宝の書き上げ

其ノ2

おたずね

「御問」

…黒田光之が志賀海神社に問い合わせた内容



次のページから
いざ古文書解読！！



お殿様が見たご神宝が何かを解説せよ！①

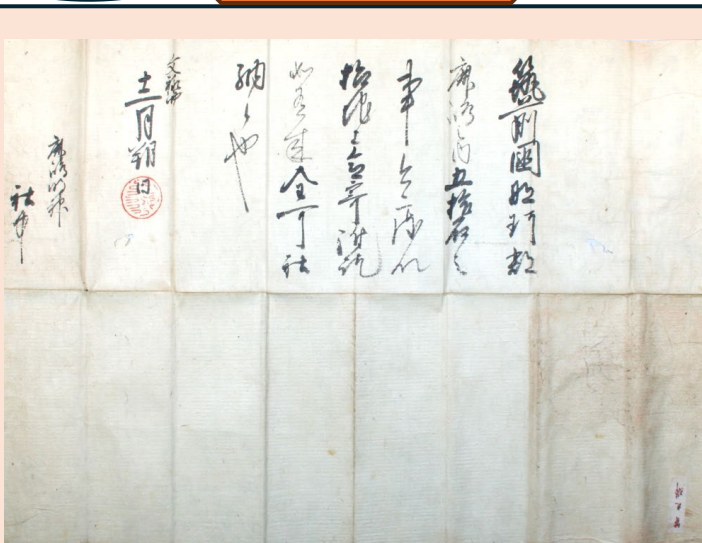


いざ！
解説！！

「御上覧之次第」を解説しよう！

お殿様 上覧のご神宝

今に伝わる

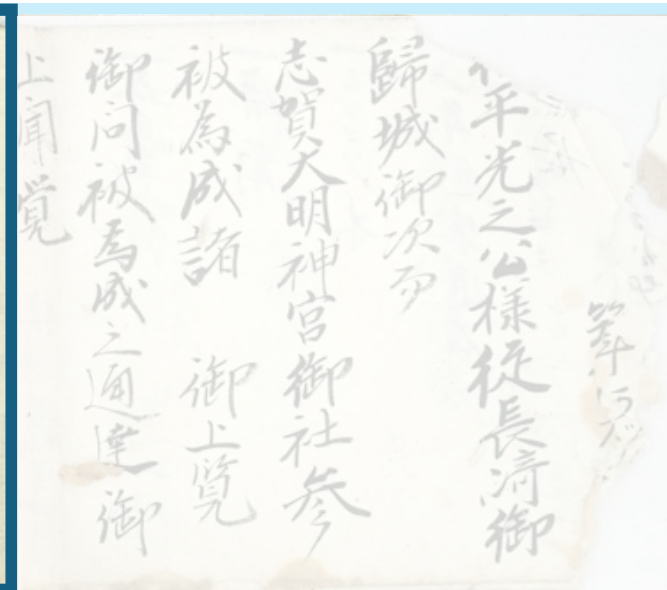
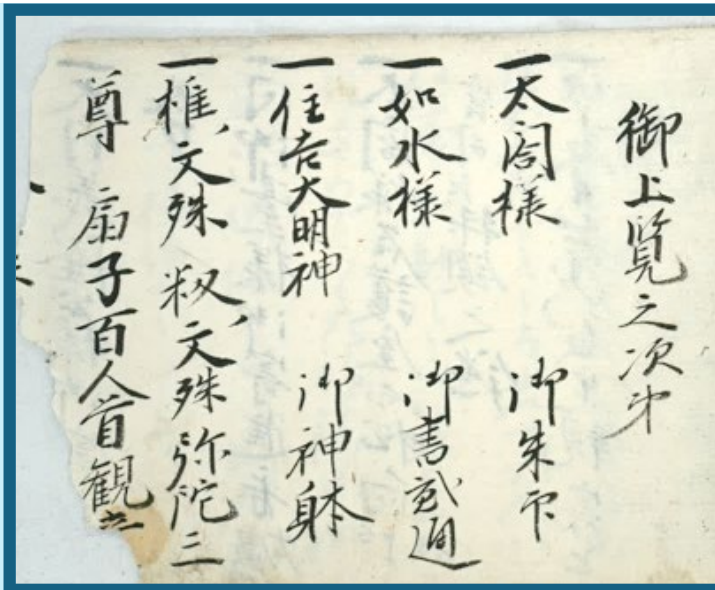


実際に志賀海神社へ伝来している
豊臣秀吉朱印状

(福岡市指定有形文化財、志賀海神社所蔵)

【内容】

文禄4年(1595)12月1日
豊臣秀吉が志賀島内50石の地について
検地をもって寄進する。



【解説文字】

御上覧之次第

一 **太閤様** (豊臣秀吉)

御朱印

一 如水様 (黒田如水)

御書貳通 (三)

一 住吉大明神 御神躰 (体)

一 椎ノ文殊 糺ノ文殊 弥陀三 (縦カ)

尊 扇子百人首 観音 (二脱カ)

「 (後欠) 」

お殿様が見たご神宝が何かを解説せよ！②



いざ！
解説！！

「御上覧之次第」を解説しよう！

お殿様 上覧のご神宝

今に伝わる



第三幅



第二幅



第一幅

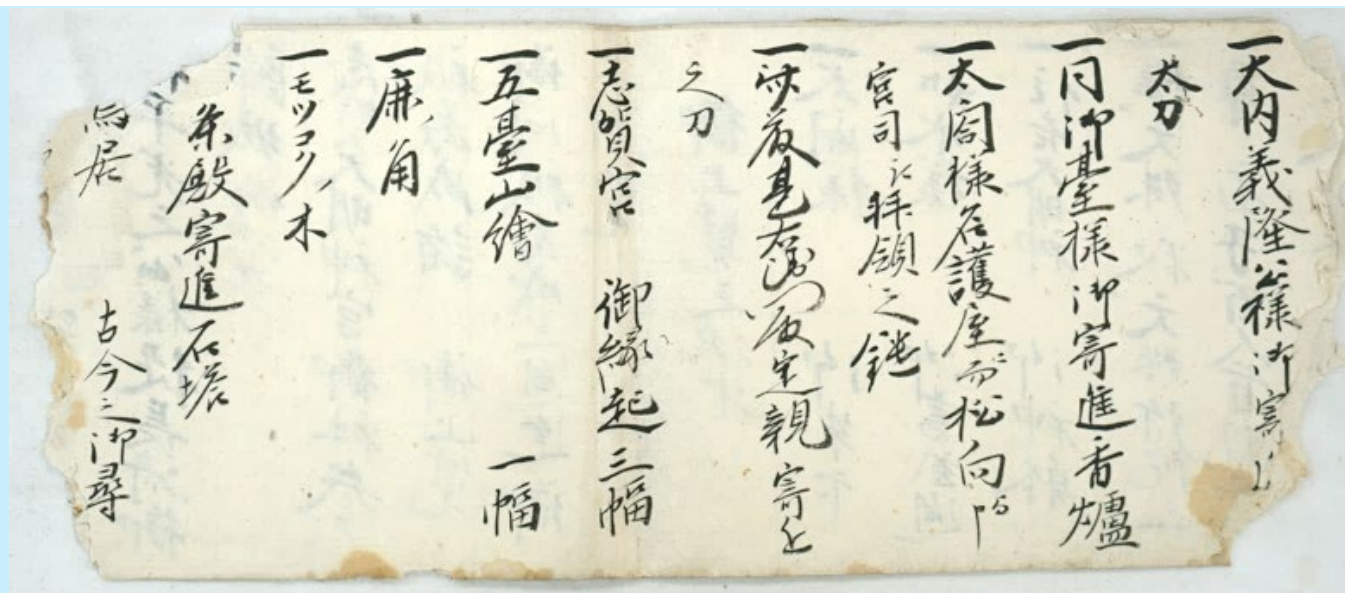
えんぎ

実際に志賀海神社へ伝来している縁起
(福岡市博物館寄託、福岡市指定有形文化財)

【内容】

第一幅、第二幅は神功皇后説話図
(南北朝時代 14世紀作)

第三幅は社頭図
(鎌倉時代 14世紀作)



- 一 大内義隆公様寄進
- 太刀
- 一同御台様御寄進香炉
- 一 太閤様名護屋にて松向と申
宮司江拝領之鎧
- 一 斎藤甚右衛門殿定親寄進
之刀
- 一 志賀宮 御縁起三幅
- 一 五台山絵 一幅
- 一 鹿ノ角
- 一 モツコクノ木
- (三) 条殿寄進石塔
- 鳥居 古今之御尋
- 「 (後欠) 」

ナゾ3
の解説①

お殿様と神職のやり取りを解説せよ！①



やりとり (意識)

何歳から神社に
奉職しているのか？

今は38歳です。
神社に奉職して18年
になります。

社人（しゃにん；神職
を補助）は何人いて、
何をするのか？

15人おり、1日・15日
(25日脱?)・28日に行く
大祈禱日の御供物（ごくも
つ）を供えます。



東殿寄進石塔
鳥居 古今之御尋
住社つかえ私年三十八、
入社職十八年相勤申し候
一神樂御上覧被為遊
一社人頭三人 五郎左衛門 神前ニ相詰
居申候何者と御尋被為成、当
社住職之社人と申上ル、惣て
社人何人居申候と御尋被為成、
拾五人居申候と申上ル、右十五人ハ
何事ヲ相勤申候と御尋被為成候、
朔日・十五日・廿八日大祈禱日神
前ニ御供ヲ備、其上ヲ以国君之
□ 祈禱仕上ルと申上ル
「一三人社人頭」 「(後欠)

いざ！
解説！！

「御問」を解説しよう！

「鳥居 古今之御尋

「司年何ッ」

「住社つかえ私年三十八、

入社職十八年相勤申候と申
上ケ候

一神樂御上覧被為遊

一社人頭三人 五郎左衛門 神前ニ相詰
助左衛門 十右衛門

居申候何者と御尋被為成、当

社住職之社人と申上ル、惣て

社人何人居申候と御尋被為成、

拾五人居申候と申上ル、右十五人ハ

何事ヲ相勤申候と御尋被為成候、

朔日・十五日・廿八日大祈禱日神

前ニ御供ヲ備、其上ヲ以国君之

□ 祈禱仕上ルと申上ル

「一三人社人頭」 「(後欠)

お殿様と神職のやり取りを解説せよ！②



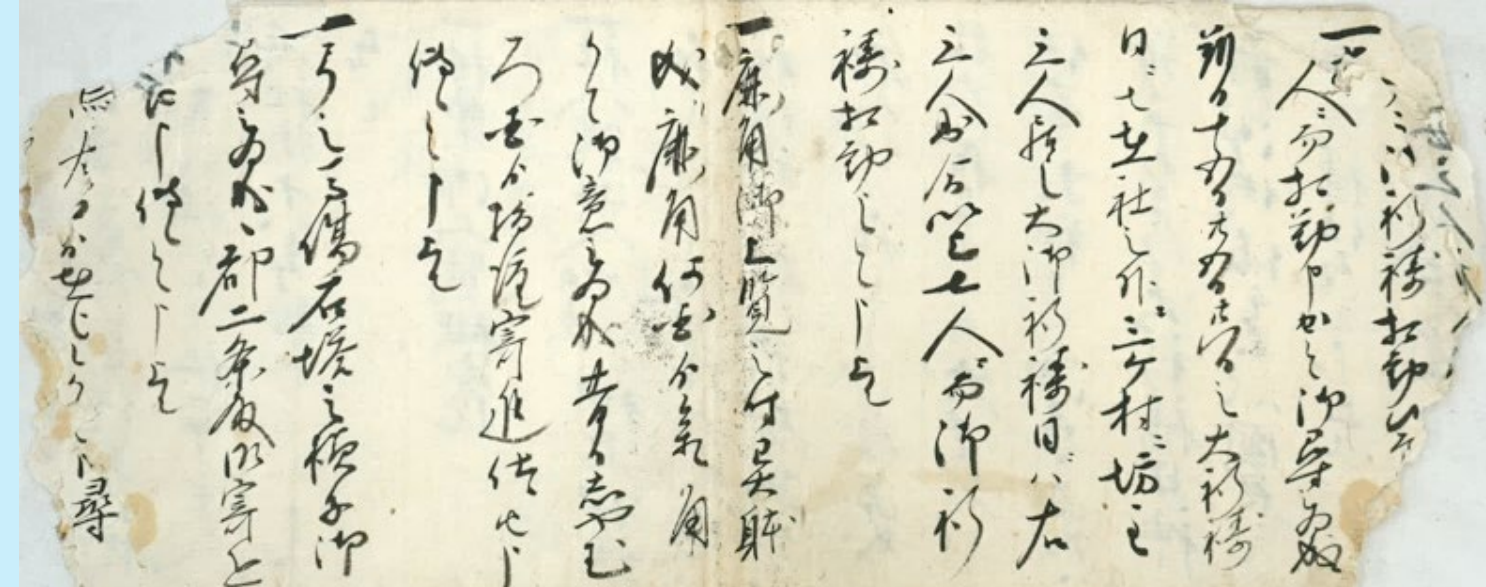
やりとり (意識)

祈祷は何人で行うのか？

大祈祷日には在社のほかに、3ヶ村(勝馬/弘/志賀島)に3人の僧侶がいるので、合計7人(宮司1人/社人頭3人/僧侶3人)で行います。

鹿の角はどの国から来たものか？

しゃむろ国(タイ王国)から寄進されたと伝わっています。



いざ！
解説！！

「御問」の内容を解説しよう！

「御祈祷相勤候」

人にて相勤申かと御尋被為成、

朔日・十五日・廿五日・廿八日
之大祈祷

日ニは在社之外ニ三ヶ村ニ坊主

三人居申候、大御祈祷日ニハ右

三人出合、以上七人にて御祈

禱相勤申候と申上ル

一鹿ノ角御上覽之時異躰^(体)

成ル鹿ノ角何国より参候角

かと御意被為成、昔日しゃむ

ろ国より指渡シ寄進仕候由申

伝候と申上ル

一弓之馬場石塔之様子御

尋被為成候、都二条殿御寄進

「由申伝候と申上ル

「より在之候かと」

(後欠)

まとめ

おとのさまごしゃさんおぼえがき 「御殿様御社参覚書」に書かれていること

年代

えんぼう

延宝9年(1681)4月9日 ※^{かんえん}寛延2年(1749)に書き直されたもの

内容

みつゆき

①黒田光之が見た神宝

例) 豊臣秀吉朱印状、志賀海神社縁起、鹿ノ角など

②志賀海神社の社人^{しゃにん}や祈祷^{きとう}について光之からの質問

例) 大祈祷日は^{ついたち}朔日・15日・(25日)・28日

^{しゃにん}社人は15人いる

大祈祷は宮司・^{しゃにんがしら}社人頭3人・志賀島3ヶ村の僧侶3人、合計7人で執行する

【主要参考文献・資料】宮田太樹編『博多のみほとけ』（特別展「博多のみほとけ」実行委員会、2024年）
「万暦家内年鑑」＜大谷光男『金印ものがたり』（西日本図書コンサルタント協会、1979年）所収＞
志賀海神社資料「□（御）殿様御社参覚書」

最新情報発信中！

